

2024 年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	マクロ経済学演習(Macroeconomics Exercises) 2037-1-23-089					担当教員	石川 英樹 (イシカワ ヒデキ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	2 年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型 AL / 資格対応科目								

① 授業のねらい・概要
授業は、ERE ミクロマクロ（経済学検定試験）の受験に向け、マクロ経済学の知識を深めることを目的とする。ERE ミクロマクロは各自の経済学の習熟度を全国レベルから客観的に把握できる検定である。さらに ERE の問題は公務員試験の経済学分野の問題と同様の内容で、本授業での学びは公務員試験対策にも大いにプラスである。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
専門的知識・技能を活用する能力を育成する授業である／職業人として通用する能力を育成する授業である。
③ 授業の進め方・指示事項
1 年次に学習したマクロ経済学の知識の確認と、経済学検定試験（ERE ミクロ・マクロ）を中心とした問題に取り組む演習を中心に講義を進める。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
「マクロ経済学」「ミクロ経済学」
⑤ テキスト（教科書）
授業時間中に配布する演習のプリント類
⑥ 参考図書・指定図書
西村和雄・八木尚志(2008)『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版。その他必要に応じて授業中に随時紹介する。本書は絶版のため、必要部分を配布予定。
⑦ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 国民所得決定理論の演習問題を理解し、テキストの問題を解ける。 (ii) 消費・投資・貨幣市場の演習問題を理解し、テキストの問題を解ける。 (iii) 現実社会での経済問題について自ら判断し考察し、他者に説明できる。

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 国民所得決定理論の演習問題	教科書の国民所得決定理論の演習問題を解説資料に頼らず解け、応用問題も自力で解ける	教科書の国民所得決定理論の演習問題を解説資料等に頼らず解ける	教科書の国民所得決定理論の演習問題を解説資料等を見ながら解ける	教科書の国民所得決定理論の演習問題を解説資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて解ける	教科書の国民所得決定理論の演習問題を資料等を見ても、教員等の支援を受けても解けない
(ii) 消費・投資・貨幣市場の演習問題	教科書の消費・投資・貨幣市場の演習問題を解説資料に頼らず解け、応用問題も自力で解ける	教科書の消費・投資・貨幣市場の演習問題を解説資料等に頼らず解ける	教科書の消費・投資・貨幣市場の演習問題を解説資料等を見ながら解ける	教科書の消費・投資・貨幣市場の演習問題を解説資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて解ける	教科書の消費・投資・貨幣市場の演習問題を資料等を見ても、教員等の支援を受けても解けない
(iii) 現実社会での経済問題	現実社会の経済問題を題材とした演習問題を資料等に頼らず解け、解説してない諸問題についての演習問題も自力で解ける	現実社会の経済問題を題材とした演習問題を資料等に頼らず解ける	現実社会の経済問題を題材とした演習問題を資料等を見ながら解ける	現実社会の経済問題を題材とした演習問題を資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて解ける	現実社会の経済問題を題材とした演習問題を資料等を見ても、教員等の支援を受けても解けない

⑨ 学習到達目標（評価項目）	定期試験（レポート含む）	小テスト	課題	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%	20%			30%		100%
(i) 国民所得決定理論の演習問題	20%	10%			15%		45%
(ii) 消費・投資・貨幣市場の演習問題	20%	10%			15%		45%
(iii) 現実社会の経済問題	10%						10%
フィードバックの方法	小テスト結果は返却して解説する。						

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
時間中にマクロ経済学を最低限振り返りながらも、できるだけ多く演習問題に取り組めるよう工夫する。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	オリエンテーション	1 年次「マクロ経済学」全般の復習	60 分
2	国民所得統計と GDP	参考書 13 章 P.225～233 の予習と練習問題の復習	120 分
3	GDP の諸概念	参考書 13 章 P.233～238 の予習と練習問題の復習	120 分
4	物価指数、振り返りの演習	参考書 13 章 P.238～242 の予習と練習問題の復習	240 分
5	財市場の分析	参考書 14 章 P.243～248 の予習と練習問題の復習	120 分
6	45 度線分析、振り返りの演習	参考書 14 章 P.248～252 の予習と練習問題の復習	240 分
7	乗数効果～投資乗数、財政支出乗数	参考書 14 章 P.252～257 の予習と練習問題の復習	120 分
8	乗数効果～租税乗数、振り返りの演習	参考書 14 章 P.257～264 の予習と練習問題の復習	240 分
9	IS 曲線と LM 曲線	参考書 15 章 P.265～272 の予習と練習問題の復習	120 分
10	IS－LM 分析の基本	参考書 15 章 P.273～278 の予習と練習問題の復習	120 分
11	IS－LM 分析の応用	参考書 15 章 P.278～284 の予習と練習問題の復習	180 分
12	IS－LM 分析と経済政策、振り返りの演習	参考書 15 章 P.284～286 の予習と練習問題の復習	240 分
13	ケインズ型消費関数	参考書 16 章 P.287～291 の予習と練習問題の復習	120 分
14	消費関数に関する三大仮説、振り返りの演習	参考書 16 章 P.291～299 の予習と練習問題の復習	240 分
15	ふりかえり、まとめ	配布プリントの練習問題の予習・復習	240 分

⑫ アクティブラーニングについて	
知識定着・確認型 AL を採用する。ERE ミクロマクロ（経済学検定試験）および公務員試験の過去問を使い演習に取り組む。	

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
平成4（1992）年6月～平成16（2004）年3月に(財)国民経済研究協会に在籍し、企業環境研究センター、経済産業研究部の研究員として、マクロ経済の調査分析業務および経済・産業予測等の調査レポート作成業務に従事した。
実務経験と授業科目との関連性
本授業は、マクロ経済理論の応用として、数値データを含む演習に取り組む。マクロ経済の理論の理解にとどまらず、具体的な数値を用いた演習能力の育成を目指している。現実のマクロ経済データをもとに調査分析を遂行した能力を、数値を用いた演習の指導に大いに発揮していきたい。